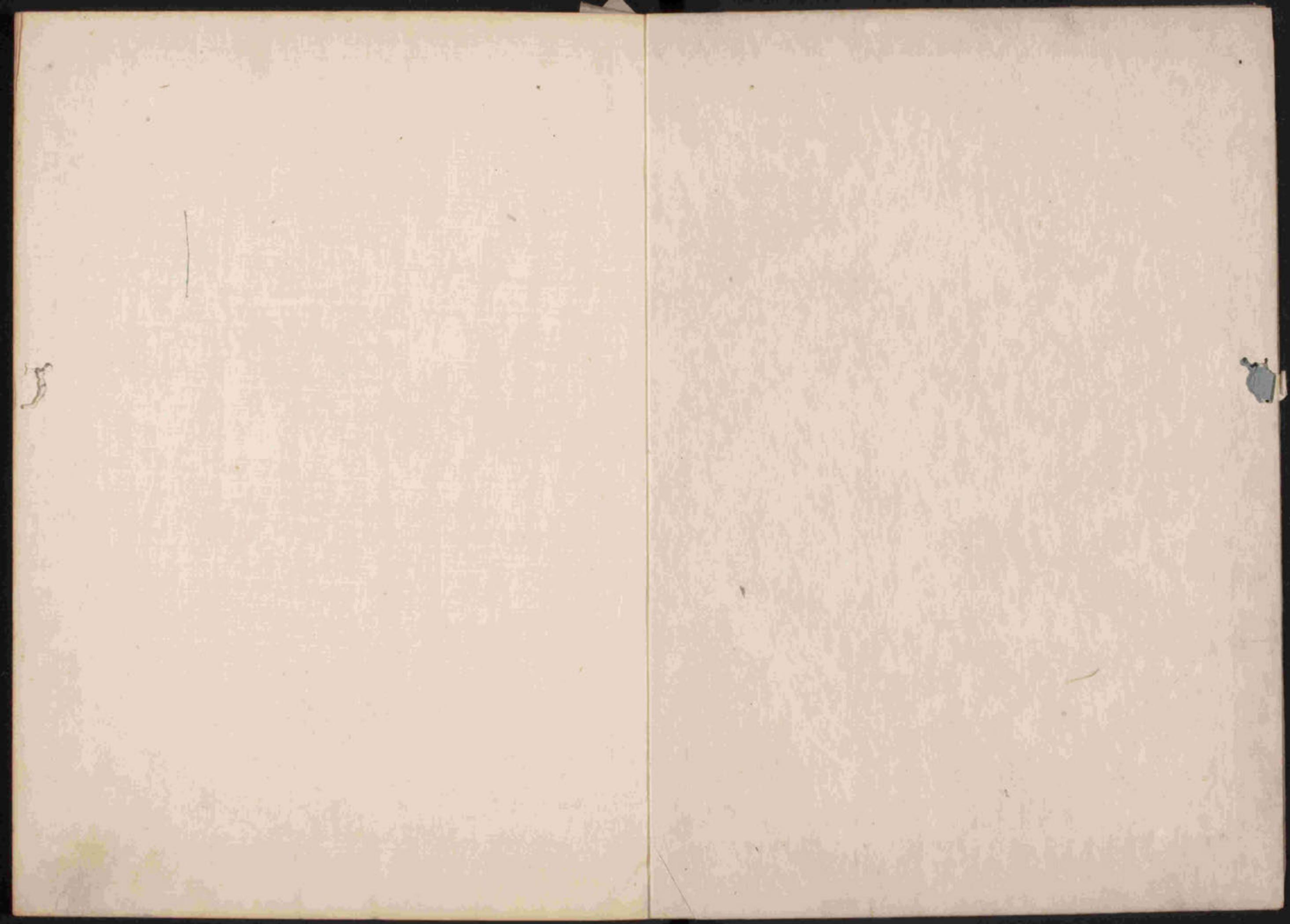


大
本

卷
一
三
四



蘇州

蘇州

蘇州

蘇州

蘇州

蘇州

蘇州

支木和歌抄卷第一

雜部三

題

洞嵩隈

松苔路

嶺巽橋

根坂用

洞

深洞風老松悲



玉清院山製

朗詠宅
古来寺
深洞風老松悲

昔少き即の秋風身は忘る梅子ひそかに
同朗詠百首 氏林の名家

月百首石床苗洞内空拂
同

建保三年石水百首水無形川
前中納言定家

美の石水無形川

おくにほくは傳法修行しては生とつけ
くまといふりやうらまはらへんかむり
けろとかん

松

寶治三年百有松心 西三位初家

志げつわのそめいしんをばいしんか
家集海外心 後二位家隆

わらまのうれをばいしんか
建長二年百有奇合 正三位忠定

とばいしんをばいしんか
家集 ありしん

のあしんをばいしんか
松心

六帖題 五元 元呼

松人とのまをいしんか
家集人

権僧正公朝

すまをいしんか
契為社三有奇合 身大后をばいしんか

情物松心

松心かすいしんか
弘長三年内裏百有松心

後二位行家

志げつわをばいしんか
久安百有

花園大長松心

からみわいしんか

松心

松心

松心

松心

松心

家集意感の大本の家の

○大友かぶるは海之兼光の
実考集をたし知りし

大井のそとに記すは海と書し

題し

後人不知

高木ひくしは海と書し

あま春の事

後二位家隆

文永二年七月の事

文永二年七月の事

花山院内大臣

日よとく水はつこま何し

弘長元年毎日一文中

いそとくしつら記の事

六帖題記

信実抄

見よきとくは海と書し

あま集中

後醍醐天皇

あま集中の事

承安元年八月全書

郭云

讀人文

あま集中の事

あま集中

あま集中

あま集中の事

百有奇抄

あま集中の事

あま集中の事

夏
いづれか
千五百番子合
本儀雅經
後二位家隆
の
百七の
建保四年百有惠
前中納言定家
と
題
百
り
刊
その子に

千五百番子合

本儀雅經

家集

後二位家隆

建保三年世尊百有為文如作

建保四年百有惠

前中納言定家

題

續人

り
百
刊
その子に

在女院入后二品親王家中者

孫村法師

家集

前中納言定家

言て
吹
天智天皇
麻の

賜鏡王女大徳大和

天智天皇

家集

西行法師

建保三年石山百有

後三位範家

春の
永
合雪

永
合雪

少らざるはかたしらの事なりとていふ事なりとていふ事なり
六帖題 抄人

の二三

建保三年若く言着 後二位成隆

新後醍醐天皇の御事なりとていふ事なりとていふ事なり

冬二の中

大納言忠良

言ふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なり

心治二の中

大納言忠良

物言ふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なり

寶治二の中

大納言忠良

後醍醐天皇御事

みづかきわと神の事なりとていふ事なりとていふ事なり
百首の中 順徳院御製
みづかきわと神の事なりとていふ事なりとていふ事なり
仁安二の中 二月寺林苑寺合 村立

通清

仁安二の中

大納言忠良

仁安二の中

大納言忠良

みづかきわと神の事なりとていふ事なりとていふ事なり

仁安二の中

大納言忠良

みづかきわと神の事なりとていふ事なりとていふ事なり

けりいなることなるにたぬるひきり
まじりたるはたしむるはたしむる

家集 元補

遠事山花 遠事山花

近江守 近江守
神子 神子
金無水 金無水
相 相
名無水 名無水

徳経兼朝臣

家集 家集

西行法師

夕 夕

同

根 根

根 根

貞應 貞應

氏 氏

三百年 三百年

順徳院 順徳院

か か

皇親御判
山家
中

建長八箇百有奇今信實如片

妻のくろかき成るれいひの神にたたり

寄居亦慮

前中納言

かひのここのて吹く林風をの夜風之やうふ

私名三之每之有中良節之為家

たのよいよまきするあしきく風言をそく

月照節水

言まらるるたのよはたけくまおのり

大納言強信

あつたおびるいひも負人かんにあつた

人のあふまるとあふまると

内大臣の御

之其を院入通二京親も中首寄言也

法下定範

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

山集

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

伊予温東に長奇 赤人

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

大田部三女

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

家集月の中 殿宮の院大納

万三

五廿

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

此のよきいしむるは音なりははるの海にあり
後京極格致

高年上人
高年上人

高年上人
高年上人

高年上人
高年上人

高年上人
高年上人

高年上人
高年上人

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

月

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

萬

家集中
命狀

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の
高年上人の

野一す

月

足寄少うすのハナハナ言ふをたに

千五百番子合 法橋頭昭

とよまたるもまゝにせむのたは

百着奇 源仲業

同いゆるははれとハナハナ

は集 古今事考

う野川吹こ風

家集 源仲正

我意のふりかへり

か集らるる意 後頼朝

ひえのそおとせ

月

足寄

とよ

百着

源仲

同い

は集

う野

家集

我意

か集

ひえ

結縁神百着 氏部

とよまたるもまゝにせむのたは

か集らるる意 後頼朝

ひえのそおとせ

大畠のそおとせ

あの上人

とよまたるもまゝにせむのたは

豊後國

橋為仲の長

とよまたるもまゝにせむのたは

保再云 人丸

とよまたるもまゝにせむのたは

霞

讀人云

けりとの抄三つにれいといふ人なりまのけりて書

初禎二の遠水三の公時女あまのりか大和

後九条内大臣

同じ廿八日とあるは志くは吹まらうしあやせはさるはから村

十集十首正三の中たかたか後鳥羽院御製

新まよくともこのけりて出目三上又三休世のまゝいひぬも言のふ

寶治二年百首 正三位知家藤原

もえしころもいひのせとていなるは物藤原のまゝいひぬ

と谷

建保三の百首

後成の女

とつ坊の書の麻の書はさひさうて梅のたのまよ

光基院入后二品親王すかかたにの漢雲

前中納言定家源

若少のてまゝいひのけりて少えの孫のいとものまゝいひぬ

隆祐の書

林の木の月をならぬ若のといふのあやまらぬ

花月百首 後鳥羽院御製

若少のまゝいひのけりて少えの孫のいとものまゝいひぬ

光俊の書

若少のまゝいひのけりて少えの孫のいとものまゝいひぬ

寶治二の百首若少の書

光基院入道二品の書

く坊に書かれたりもていふは昔の事なり

同 常盤寺并入道大徳住持

二月廿二日 常盤寺住持 仲實住持

家集

三つと書かれたりもていふは昔の事なり

千五百首并合 恒位家隆

恒位家隆

百首并

何と云ふの事かといふは昔の事なり

六帖題

志げの事いふは昔の事なり

建長元年 恒位家隆

又恒位家隆

恒位家隆

文永三年 恒位家隆

恒位家隆

同 恒位家隆

恒位家隆

西の主人

恒位家隆

建長三年 恒位家隆

恒位家隆

同 恒位家隆

恒位家隆

同 恒位家隆

恒位家隆

又恒位家隆

恒位家隆

恒位家隆

恒位家隆

少草の首の寫きとすあはれしけしと好との強く

題志す 嘉の谷

後人志

百七十五 蘇あさひとこのためかけ 新 物とひとる 東

三

深養父

此の首の
前にある谷
まはの首の首
なれも此首と
いわれたるか

明月 三 物とひとる 東 物思のそとる

後京極権政とせ給けり 以 定家の首の

後二位家隆 東

中ひとる け の志 こ と か な く れ 東 の首の 志 の

後朝野家集 こ と た ぶ 世 白

源後重

花 あ り て さ ら と 首 と 志 あ り あ り に も た り た の 志

け 哥 た な こ し け 月 と り ま 建 く ま り

け ら よ と あ そ ひ け ら は あ そ ま な り

ま り け ら は な り と な り と な り と な り

日吉首 は り 志 和 尚

に り て も な り と な り と な り と な り と な り

後京極権政 と せ 給 け り

同

ね に の 同 の 志 と な り と な り と な り と な り

存
来
東
林
吟

畏

題志す 三

人丸

い て こ ら も し ひ と 志 け り と な り と な り と な り

建長八年首 志 と な り と な り と な り と な り

三

なまこをたやかりよるれしてころびのそとれをまけ
け等判者 行家之 云むしらの要のまをけら
有友の守父身之承ありて中奇の詞義相
叶ゆえーとさ

六帖を尋

信友の巻

信三の巻

新三
昌くのとさく。一何といひの事すの如くま
あつてくつらたあく

源光の

これこれたのじ本のもま
け等詠次記云前條の者たらてなる
いまあつてすくつらたあく
建長元年あつてくつらたあく
地元のあく

四の巻

氏部なるあ

あつてはまけーおあのを入のまをけ
建長元年百丈の首様

前中納言定家

五の巻中

後条入る用白

あつてはまけーおあのを入のまをけ
かやまのすとの原乃之
題をすの巻の巻
讀人

寶治二の百首是降

前大納言基良

うたあつてはまけーおあのを入のまをけ
うたあつてはまけーおあのを入のまをけ

題不知 （今改置大和）

赤人

百十

牧らるるものちまくらたき （刊元） 家集人入女の蒙るの示して蘭社 （刊元）

清輔の片

永保 （兼イ） 元保 （兼イ） 大嘗會 令主基方は屏向

稻村 豊丹 （兼イ）

兼中納言 進房 （兼イ）

天仁大嘗會

友室 （兼イ） 的長

秋三の中 （兼イ） 指大納言 冬基 （兼イ）

寶治三年百有 （兼イ） 豊丹

三位忠定 （兼イ）

いり （兼イ） 入目 （兼イ） のと （兼イ） 代 （兼イ） 松丹 （兼イ） 氏 （兼イ） 部 （兼イ） の家 （兼イ）

同 （兼イ） 基俊

寶治二年百有 （兼イ） 豊丹 後二位 頼氏 （兼イ）

三鴻社奉納 （兼イ） 抄 （兼イ） の （兼イ） 寺 （兼イ）

指博 （兼イ） の （兼イ） 抄 （兼イ）

（Faint vertical text on the left margin, possibly bleed-through or additional notes.)

公八雲并五 （兼イ）

兼イ

同 （兼イ）

基俊

後二位 頼氏 （兼イ）

（Small characters at the bottom left of the page.)

文永三乙七月白川若七百首 刊元 源後平初也 刊元

そめふとちかみとせむく かきよか ねむりつねくはるき

六帖題 刊六二 神玉果山城 衣笠内大臣

影す 債人もく

懐 一五 したのまねもまういお 一五 ねとまあ 一五 ちか

秘 梁塵抄 秘 秘年中 氏部之靴支 一五

百首 一五 百首 一五 前中納言定頼 一五

三百六十首中 一五 好建 一五

新勅を

ちよあさむらひ 山集 ちよあさむらひ 山集 ちよあさむらひ 山集

寶治二年百首 一五 陸奥 一五

鷹司院按察

ら 現六 ら 現六 ら 現六

六帖題 一五 衣笠内大臣 一五

同 刊六 同 刊六 同 刊六

家集 相模

同 一五 同 一五 同 一五

小田 一五 小田 一五 小田 一五

大和 一五 大和 一五

建長八の百首の合（刊元）

高司院（刊元）

公家元也

善かたる井のどとどとこれのまはけ（刊元）

畏橋衣（大和） 段九条内大臣

からもく井のどとどとこれのまはけ（刊元）

信實院（刊元）

尺三寸（刊元）

冬哥中（大和） 大亮下隆博（刊元）

ひより人（兼）

永保元（兼）

前中納言（刊元）

とと女（刊元）

寶治二の百首 後成の女

とと女（刊元）

堀内院（刊元）

あさあ（刊元）

一宮（刊元）

いり（刊元）

題不知（刊元）

まのど（刊元）

衣（刊元）

あさあ（刊元）

野（刊元）

いり（刊元）

文惠元子の基政公の宮の松祝

権僧正公朝

若くは元子（たか）の松祝

六帖題 三の目 中務公の（たか）松祝

若くは元子の松祝

是松也 有（たか）意（たか）給（たか）松（たか）祝（たか）

色入（たか）の松の（たか）祝

夏清年中 後九条内大臣

いそり（たか）と（たか）あ（たか）ま（たか）り（たか）て（たか）る（たか）交（たか）草（たか）の（たか）志（たか）し（たか）の（たか）祝（たか）

堀河院の（たか）百首 隆源法師

村（たか）き（たか）て（たか）言（たか）む（たか）ら（たか）し（たか）父（たか）く（たか）ら（たか）し（たか）る（たか）の（たか）祝（たか）

月（たか） 前次文何用

志（たか）し（たか）る（たか）も（たか）志（たか）る（たか）人（たか）を（たか）ま（たか）た（たか）の（たか）祝（たか）

志（たか）す（たか）中 保孝公

人（たか）の（たか）志（たか）す（たか）は（たか）志（たか）す（たか）の（たか）祝（たか）

百首は（たか）志（たか）す（たか）の（たか）祝（たか）

志（たか）す（たか）の（たか）祝（たか）

志（たか）す（たか） 長生内大臣

時（たか）あ（たか）ら（たか）し（たか）る（たか）の（たか）祝（たか）

坂

六帖題 三三信知家

心（たか）あ（たか）ら（たか）し（たか）る（たか）の（たか）祝（たか）

月 長生内大臣

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人
堀河位は村百有 指大納言云々

はとものころのりらとけよとて言ふ事なり
文永七年事その中 民部卿云々
たのころのりらとけよとて言ふ事なり
はくしとて言ふ事なり

大宰大貳

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人

うりふ坂にありて

文永三年九月

河原院云々

今云々

坂位

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人
あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人

承久三年三月百有村山

後二位家隆

神世ころころのられ言とけよ其らさる事どの人
承久三年三月百有村山

二条大身大臣

指大納言云々

題下

積人云々

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人

同

同

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人

指大納言云々

指僧正云々

あしあしころころのられ言とけよ其らさる事どの人

坊川院石村百首 なつこく山後或丹波

中納言国信(5)

まゝ商人代もつたといひしるよらふじりかたのつてあり

常 伊勢 題 まのつとむ 詩人 一

後神 まのつとむ 同 いづかみのかい 秋 まのつとむ

唐暦二年百首 三行 光俊 駿河或伊勢

い まのつとむ 題 まのつとむ 人丸 まのつとむ

あ まのつとむ 世或部 まのつとむ

あ まのつとむ 月 まのつとむ

しんらにからしむる... 威方朔也

威方朔也

あしもろまの... 結用法也

結用法也

東國の俗事... 後人...

後人...

あしもろまの... 神前...

神前...

あしもろまの... 讀人...

讀人...

あしもろまの... 大寶...

大寶...

あしもろまの... 月...

月...

あしもろまの... 氏...

氏...

あしもろまの... 腰...

腰...

三百...

あしもろまの...

能國... 能國... 能國...

元... 元...

ゆき秋秋小阿長隈川を志す事と色とを祿せ此種
文治六年丑社百首刊 皇太后宮大夫権成成
けさ文書いふく後川をうと求とさう原の書尾行行
貞永元年八月十五夜他河の舎

一安ん版

視事

たらたあひらまのんはの川風風しりしりしりとあはら

路

題可一す

狭人毛毛

は秋志秋あはらあのるくととんれれといふとあはらあの

六帖類

西詔詔なる家家

あはらあのるくととんれれといふとあはらあの

刊

女入内御屏風

前中納言定家家

すゝあはらあのるくととんれれといふとあはらあの

文治五年存高務格及家言十首奇令下

言中中信信の

句

あはらあのるくととんれれといふとあはらあの

家集意三の中 依仲正

あはらあのるくととんれれといふとあはらあの

六帖類

正三位位

あはらあのるくととんれれといふとあはらあの

千五百首奇令 家家長長のの帖帖

我君のあはらあのるくととんれれといふとあはらあの

長介

鎌倉村

氏起の家

はるるをまとこいみちをくまふらふまのま

六百番手合

隆信朝臣

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

河原橋政家百有

後成の女

たふらふらみのみちを根てもあまたをまらひ

文治六年女入内出屏向

後京橋橋政

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

承久の辰後を辰後よとまらひけつ三申

後二位家隆

たのむしむくみちを根てもあまたをまらひ

家集林の末のまらひけつ三申

和泉式

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

家集の末のまらひけつ三申

後新朝臣

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

花月百有はるまにむしむくみちをまらひ

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

建保三年若石百有緒断橋

正三位忠定

あふまはるまにむしむくみちをまらひ

寛政社寺令 道徳書

Handwritten musical notation on a narrow strip of paper, oriented vertically. The notation includes a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 3/4 time signature. The notes are written in a cursive style, with some notes appearing to be beamed together. The strip is slightly curved and has a rough, torn edge at the top.

Handwritten text on a narrow strip of paper, including a red stamp and cursive script.

紅印
不
不
不

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

御書
おぼての袖の痕からりけりたまのまのまきけのちの
（三）

安元二年十月五日大内家三合初名

あや明

ふよのいさのころ書りてぬるまのくさくさ

千五百番奇合（九） 後成之女

あふれど人こそ志す神宮の井の邊のひらぬらふれ

惠百首奇中（十） 西行上人

あふれど人女そつねよるまのころものすめしたるけ

家集推奇中（十一） 月

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

元徳天皇院若下（十二） 侍子（十三） 後二位中納言

月殿
御書
おぼての袖の痕からりけりたまのまのまきけのちの

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

百首三の心詠（十四） 系後雅經（十五）

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

安福二年百首心詠（十六） 氏越為家（十七）

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

古帖題（十八） 中務（十九）

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

題（二十） 丹比國人（二十一）

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

月（二十二） 秋人不知（二十三）

あふれど月よのいさもかりひのころのたすあせの

月（二十四） 人丸（二十五）

しよまらちのむすめはくーたのりーちのむすめはくーたのりーち

川 三浦河 地中

三浦河村

みらちのきりぎりすのさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

川 三浦河 地中

三浦河村

はくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

川 三浦河 地中

三浦河村

まらちのきりぎりすのさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

川 三浦河 地中

三浦河村

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

川 三浦河 地中

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

猶存社百首

持僧正云如

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

信守 ふたみち二見

高市黒人

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

旋双寺 おほみち

後人云

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

川 三浦河 地中

三浦河村

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

建長八寺百首三合 衣笠内大木

あゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝそのむすめはくちのあゝ

山集春庄三の中 大和

中格三の文ニ種全

くしからなる多々あり 中若先 一に 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
河院橋段も昔同様

藤壁門院但馬

玉子 源氏 なるものありて 三つ なるものありて みけを せしむる むら
千五百番 源氏 合 みけを 具親胡片

は集

後法性寺入石開白

ち 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
月 みけの中道 中務のみ 源氏 徳会

家集言集

如是法師

人 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
ふ 源氏 なるものありて みけを せしむる むら

正徳二年 毎月一冊中

辰部 源氏 なるものありて

い 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
は 源氏 なるものありて みけを せしむる むら

月

ら 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
後 源氏 なるものありて みけを せしむる むら

後二位家隆 源氏

あ 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
一 源氏 なるものありて みけを せしむる むら

有孝氏 源氏

は 源氏 なるものありて みけを せしむる むら
ら 源氏 なるものありて みけを せしむる むら

高司院師

現存六

父の事... 家集... 徳田法師

徳田法師

行少... 題... 人丸

題... 人丸

仁安三年... 朝惠法師

朝惠法師

屏向... 徳宣... 人丸

徳宣

山名... 讀人不知

讀人不知

長哥... 人丸... 橋

橋

隆源法師

音書... 橋頭

後成... 大車馬

又... 橋... 大車馬

武將常侍として奉使置郡に入家す

りせしむるにむしむと物あまの文者ま

りてあまの文者ま

文方期片家集

文方期片家集

後景政朝片

文方期片家集

文方期片家集

文方期片家集

文方期片家集

後景政朝片

橋本家集

秋賦張讀
秋而官漏長
空階西星而
御園何在
世不念深

行のおめらむる...
家集
西三位建定

六帖題は...
中務の文

安部門院...
法眼文融

右水三...
文後朝

十月初...
為文朝

百首...
小入道

協川院...
後多野院

その...
杖

...

...

...

...

...

けり公今上即位の時大納言三位のり
あけしとて上階してありしは半す
文永三年毎一首中

氏部なる家

明玉

橋冬月と

文治六年本社を身大后と大権女

弘長元年毎一首中

氏部なる家

あはれおもしろい

法集四等 徳念七大夫

法集等橋原 法持ち入道南白

類志一六 後人志

大伴部中

後人志

日

百十一

公誰南子
若行徳原不為
無人不敬其分

五

五

五

大徳寺為房

都よりまきつりしはあつねいりまきあとのの松のむら

ほり 有基政

たちやうたふくめるし東海のみまきあつねいりまきあつね

後常務三の合葬中眺ら

慈法和尚

深みへあつねいり松乃橋より深名の橋は林風を眺

建保三年若下百舌 後二位家隆

ららつねいり深名の橋へ入るはなるなる母これと

文應元年七社百舌 民部公家

ららつねいり深名の橋へ入るはなるなる母これと

家集院石面より橋上者屯

修理大夫政事

ららつねいり深名の橋へ入るはなるなる母これと

家集 陸奥 後二位家隆

あつねいり深名の橋へ入るはなるなる母これと

永久四年九月三言居寺後番寺合亭

覺國法師

松小立河芳子よりあつねいり深名の橋

同年百首不見書意

源道昌

日記よりあつねいり深名の橋へ入るはなるなる母これと

家集元年永久四年百首不見書意

後頼朝

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

橋上月... 上死... 院... 人... 子...

権大納言實家

を... 人... 子... 橋...

類... 三... 位... 子... 經...

を... 子... 子... 子... 子...

建保... 百首

後成... 女

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

同 兵衛内侍

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

花中納言...

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

同 日

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

後人之...

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

隆源法師

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

百首... 長...

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items.

そのへんがし

鴨長明

うらむむしりしはるの舟よりありてをたもるものえ
けり侍執れ云は櫻乃とていふ事ありしは橋
高力のに舟ありぬの舟よりいふ事ありしは橋
たして流れて舟ありてはくけりし事あり
こといふものいふこといふこといふこといふこと
てよめりし事

惠哥中橋

長並内大臣

かこるは女のいふものいふものいふものいふものいふもの
百有三のいふものいふものいふものいふものいふもの

建長元年毎自一首中

因防式七

氏部なる家

あまのいふものいふものいふものいふものいふもの
康平元年三月祐子内親王女御

加賀

あまのいふものいふものいふものいふものいふもの
月

讀人

いかにいふものいふものいふものいふものいふもの
被蘭社百首十鳥

川多和也といふものいふものいふものいふものいふもの

題志

吹奏刀自

まのいふものいふものいふものいふものいふもの
百

家集

隆祐抄

現存云

寺に接するらむと云ふはまの海に流るるにせむる事
永百二十二月平経盛家三の合二月日
如家改年

大宰大貳高階

家集

文應元年七月廿七日
民部卿為家

舟のこころのまゝに
法集

信文の巻

少のこころのまゝに
信文の巻

家集

貫之

文治元年七月廿七日
和泉武敏

信實の巻

信實の巻

橋の巻

大納言隆房

家集

天長元年七月廿三日

和名大藏

天長元年八月賴朝の御成敗の合

華中因名小名子孫傳

後人乞

我身もなほのつら橋のつら

後人乞

真言法師

永久元年七月廿三日

琳賢法師

百有奇橋

後二位家隆

天武天皇

後醍醐天皇

建長元年

氏親の家

大正の橋のつら

後醍醐天皇

大正の橋のつら

僧侶云

八巻八巻
九巻九巻
十巻十巻

文治六年
皇太后御成
御成
御成

家集
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

清心

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

八巻八巻
九巻九巻
十巻十巻

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

御成

御成
御成
御成
御成

御成

御成
御成
御成
御成

御成

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

御成
御成
御成
御成

る忠類は家老に御若下り合入稿

御若下り

兼念法師

ありら

兼念法師

月

兼念法師

みらるぼいりふくはいふかゝりいりいりあふらりあふらり

林直中

中務の文

八橋のあつりいりの林をよこころいりいりいり

建た二も又十首鴨下花

兼念法師

風はつるたあてのあつりいりのくろくはからたまひ

海邊宿次百首稿 兼念法師

中よはらるるあつりいりいりいりいりいりいりいりいり

家集

相模

いりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

題もいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

たにいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

永久元年百首 兼念法師

あつりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

家集 鴨名明

あつりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

海河院は時百首 大納言仲頼

いりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

屏風の繪はかゝりいりいりいりいりいりいりいり

兼念法師

かろふんわむいふくろう〜たつものま〜ちぢあはん
題しす

百人一首
讀人不知

あのとせふく〜百首あつ〜百首のた〜

百十一
月 ちのう〜

月

その〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首

長女後入道二京女百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首

三條入道た大女

又良子木〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首

題しす 後人不知

〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首

春日社奉納百首橋

東本門院宮家

舟〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首
集落花埋橋 河川た大女
文治三々百首母思意
前中納言宮家
越前丹生郡河内佐加豆

〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首
題しす 後人不知

〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首
月 月

〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首あつ〜百首
下巻

文永二年白川殿七首首

光後朝片

今も神ぞあるそ人又月あよき今よそくあは

久安百首 大炊口門た大

見つははもさちあやかろりあ若のこまりもあす

さらのくらへてあひのそと あははるは

徳圓法師

くらあもあひのそあは 港真

百十 このしかり 人丸

かまはものさのさあそ 世台又上野

大嘗會悠紀方所屏風 風俗哥 さうま

前中納言建房

心 よたの

家集よりぬそ中 西の上人

又月あよこの舟橋ぐさあす あは

仙洞あ十首橋下花

後高橋橋政

あまらのこのさき う

建保三の右町百首

長束内侍

東海よりけして 中

心三信忠定 か

の

和祿三年百首 氏誅 の

の

實光三ははは葉のたか
まはあひのけりあはは
即格可也
前中納言建房
和祿三年百首
和祿三年百首
氏誅
心三信忠定
長束内侍
東海よりけして
心三信忠定
和祿三年百首
氏誅
心三信忠定
長束内侍
東海よりけして

刊元
海の一てり

同

東下ふらふにむけしをのこもねなるまほしの物さ

し、建長二年あるまへにけりまわら

家集はく一まわしけりまわら

大宰大貳高遠（刊）

讀人（抄）

建仁二年九月三日の橋下花

信長

百着奇惠

重之

其のしやもや

立音書奇合新惠（刊） 慈徳和尚（抄）

寶治二の百着水（抄）

仁二位頼氏（刊）

文治六年立社百着契（抄）

白太左衛門大末後（刊）

後法性寺入道用白家五月（抄）

同

同

同

同

同

同

用

可着守

後鳥羽院御製

所入の人の御

建徳百有周

身太右官奉侍

中へさまにせく

坪川院に付百有

仲文約片

とらひさまてい

建長八年百有周

兼大納言

ふき入りの

け三の判者

路守と

建長七年

指少僧林玄寛

所入の人の

六百番

大苑

後京極

後京極

麻蓮法師

所入の人の

六帖題

支後約片

建長八年

建長八年

た

又方ノ言ハルルノ如クハ...

建保三年内大臣...

...

...

...

十題百首十地...

前中納言定家

...

建保三年...

氏部ノ為家

...

結縁經百首

...

建保三年内大臣...

建保

後二位家隆

...

建保三年三月内裏...

仲實抄卷

...

信實抄卷

...

定家集

...

後深草...

家集きの又々 如きは所

今集す神の心 Samurahi 古の心 Samurahi

六帖題

中務の心

今集す神の心 Samurahi 古の心 Samurahi

永久元年百首 蘭遠 謙意

信彩の心

すくじある心 古の心 今集す

永徳三年十月は信与 合用海船

あやうくすくじある心 古の心 今集す

越中国任の時僧 角三

中納言の心

あやうくすくじある心 古の心 今集す

六帖題

衣蓋肉大信

あやうくすくじある心 古の心 今集す

寶治二年百首 前中納言定嗣

あやうくすくじある心 古の心 今集す

堀川院ち時百首 修理大夫政季

あやうくすくじある心 古の心 今集す

歌一すす 族人之心

あやうくすくじある心 古の心 今集す

六百首三合用意 信持の心

あやうくすくじある心 古の心 今集す

家集用海船 信仲の心

あやうくすくじある心 古の心 今集す

△今集す神の心

毛利敬

題不知

續人之記

△常陸那珂郡香取

まの... 入道持政家百首有用度

慈徳和尚

東... 千首... 野...

おえ... 野...

友原為守

り... 光俊...

家集... 光俊...

い... 永...

永... 高...

高...

又... 用...

用... 後人之記

川... 隆...

隆...

そ... 實...

實...

正三位知家

百... 貫之

貫之

千... 後...

後...

長... 長...

久安百有長哥 侍賢門院女藝

身代たるものゆかり多しものいふにあらざるもの美すく
すまひ年とさめてしるる

題志すしむる言 後人志

三林三林 ありまらぬやぐり城のあけのし林さくもの

月 月

のぬらいついふにをりしるさくしるのむかぬ
久安二年七月山崎三合言

大宰大貳重忠

少言のまはのむらじふりてしるさくしるのむかぬ
若水三の中二月書と康資し母

我のしるしむらじふりてしるさくしるのむかぬ

永久四年百有 仲文如片

あつきのぬらの言をむしむしむるさくしるのむかぬ

殿下は合用處 後頼如片

ぬらのせいのむらじふりてしるさくしるのむかぬ

嘉應二年十月信行ち友平合用處

高兼 威方如片

みるまらぬやぐり城のあけのし林さくもの

法持ち入道合用自志百有

隆信如片

ぬらの美なるゆかりにすまひのいふに美なる

このいふにすまひのいふに美なる

津守固基

志くしむるをいふはあはれなる事なり

前徳二年十月法皇の御命を合國の諸君

大納言内大臣

ちかちかおのりておのりておのりておのりて

重之

書きし言をいひし言をいひし言をいひし

家集

近來院周備

よらけの衣の言をいひし言をいひし

貞治二年百有

用勅

并内侍

おのりておのりておのりておのりて

三用

續人

日

日

おのりておのりておのりておのりて

百有奇

後二位家隆

言代の言をいひし言をいひし

堀河院

大納言

おのりておのりておのりておのりて

日

前中納言

おのりておのりておのりておのりて

家集

大納言

おのりておのりておのりておのりて

村
修
家集
白馬園
鴨長時

ねのよの契をるあつあつとくしきつらきあはれ

柳川院出付百首 聖明 持僧正水縁

とひせよとくまき一せはく舟志まの美 國事

た京の毛ははらうけ 大目

有仲文

あまのひく女のみまをとりけりていづるまは

建合の百首の合 衣笠内大臣

又その美もつははくまのさかあわまを

寶治二年百首 薄壁門院中宰相

はまのくまのあまがくまのさかあわまを

仙洞歌供上の用詠嘆

後高橋持成

このあまのくまのあまがくまのさかあわまを

百首の

本陣門院御製

すまの浦やいづる海の一か一人とさむら

祇園百首用

身太后之大夫後成

実の若もすまのくまのあまがくまのさかあわまを

南府子首の月

兼儀為相

のいばすまの浦をいそぐねとさむら

日あまのくまのあまがくまのさかあわまを

兼自捕獲

すまのくまのあまがくまのさかあわまを

鴨長時

支木和評抄卷第廿二

雜部四

題

野牧烟

原田巖

林島石

森園細砂

野

建保二年内裏詩可合野外霞

前中納言定家

松の音ささくわやうつ二葉の色は秋の心かすみゆく

長多院入道二宗叔の家文十首

月

つらつじまやこの野色にららむとて花とをらるる

六帖題

信實朝臣

みよせいのすらまの父のよはこくし守りあ

家集

西行上人

さく人のあつたこわさくをめてし

祇園社日首野

身大后を天女後成

分松遠山... 松の音ささくわやうつ二葉の色は秋の心かすみゆく

六三... 朱志

後... 白宮

原...

加...

信...

のまゝにふるふりかへりてのさへも
野膳野膳白言存 千里

かきつゝのふらけく又よきいさきくものさへ
題志百七す 無代無代 後人志後人志

元永元年六月八日入在太政大臣家言合
方惠

源經兼朝臣

寄雲寄雲 後人不知

柿中納言白言景行奇

後九条内大臣

時ありてまうらう孫とてくたの杖つとけを
冬は年中

弟三の女雅惟

正治二年百首 前中納言定家

あはれも人いそひとのまの杖のみらるるま
家集 生田中野 松律 川

永久二年大津宮祓豆合簿 讀人不知

終ていもその野色の花す 隆源法師

早かきよにその野早かきよの花を柱文

あゝ〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

建永元年の和守の三首の合朔草花

（建永元年）

具親

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

待賢の夜安観

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

正治二年百首

正三位書經

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

建長八年百首の合

（建長八年）

前大納言頭朝

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

貞應二年六月右近百首

氏部公為家

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

侍中納言師俊

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

家平十首眺

良女院入石二首

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

建保三年内裏の合

（建保三年）

後三位範家

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

家集野花薰袖

修理大末頭補

〜〜のさきさきいふも又袖のすきさきの痕

題志

讀人不知

十市道江

南園印

伯能少能
古和

かみ

後鳥羽院古事

厚とさ人々をこのはの集よまもやあまき

月

江戸

後二位家隆

神楽

立より守はの厚やかりたかのみわし

建保三年若水百首

三信中定

秋もををかみの書かみせいの安んじ

月

正三位

見りしはかみのまゝの風こころすきり又

貞應二年南有百首野経初雪

氏部

つらく改このはかろくに新言きり又

寶治十首三合野が

大正

みませじちまこりのちよけかたき

永久元年百首雅

仲文朝臣

みりしはかみのこのとけあか

建保之の初供百首

信實朝臣

夕ちのすくがのね風あそくおる村雲の

伊勢国奇

中納言家持

かそらの野よありてよのちせいの

家集

法補朝臣

るくはかみのこのとけあか

百七 題一す かの世に 後人志く

高市連軍人 月 文久元年 毎月一首中

氏部が家心 高市連軍人 文久元年 毎月一首中

多しき世に かの世に 題一す 高市連軍人

人丸 題一す 高市連軍人 建長八年 百首奇合

法下実作 題一す 高市連軍人 建長八年 百首奇合

海道宿次百首がまよの 兼生道江 兼議為相

後九条内太 掃中敷供百首道三の 兼議為相

善徳和尚 百首道三の 兼議為相

正三位知家 寶治二年百首 兼議為相

六帖題 兼議為相

三つ野にありてはるるのたぐひは我々のまはるる

同

同

朝日よけすのたぐひのよとく霞の巻ゆかすはるる行けく
延長元年三月暮れに息下るる合

すののまらむすすのあはるる

家集

横野は又上野河内

西の上人

すののまらむすすのあはるる
六条河原寄合 茂苑

春林を志すまらむすすのあはるる

久安百首

国未即

実徳抄

林まらむすすのあはるる

秋葉かき立て
らんたなるる
しりはるる
のくにけり
か首はるるの湯

同

たの入船多胡
任列上野

玄後朝臣

病ふまたこの入船の草まらむすすのあはるる
題志す 讀人志す

あはるる

同

誰事野大和

同

きりふにたりとるる

西園も又道前大政大臣家母首

後二位家隆

雲をよふまらむすすのあはるる

大嘗會悠紀号は屏風玉野原

後成

病ふまたこの入船の草まらむすすのあはるる

公下
衣手野
衣午衣
袖河原
皆河原

津集初林也 たけのこ 後九条内大臣 後醍醐天皇

少らぬと海とそやといふのだこの子の林也 後醍醐天皇

永久三年大邦文神宮三合女席也 後醍醐天皇

後人志 後醍醐天皇

志るまのまのむすのむすもろとそや 後醍醐天皇

寧ろ弟の 大和 月 大和

かろまのいふはくさのそや 大和

建保三年名宗百首也 大和

高田野大和

順徳院は製衣

たふまのむすのむすもろとそや 大和

心三位家衡 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

月

心三位家衡 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

長治元年五月名宗百首也 大和

大和文逸 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

百首也 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

久安百首 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

題志 大和

たふまのむすのむすもろとそや 大和

寶治二年百首 大和

兼中納言定嗣 大和

ぬきまのまじりの時月まきくよさるる
月 みかぬすの 國を分册 支後朝片

あつたまの好とあふけいんにむしる神とく
家集之康元二年十月長沼野と云
しんせいのあふまはあつておのよひまじり
ころやうにむろくころあまきり甲斐乃志神

野望草想 蔵 後頼朝片

しんせいのあふまはあつておのよひまじり
建保二年内裏坊三合野の事 さる

順徳院御書

しんせいのあふまはあつておのよひまじり
しんせいのあふまはあつておのよひまじり

久安百首 前大納言隆季 く

しんせいの神とはあつておのよひまじり
あつておのよひまじり

あつておのよひまじり
あつておのよひまじり

如教法師

しんせいのあふまはあつておのよひまじり
あつておのよひまじり

雅野 後人志 ま

しんせいのあふまはあつておのよひまじり
家集建徳百首中 法補朝片

しんせいのあふまはあつておのよひまじり
あつておのよひまじり

建保三年名所百首 後二位家隆 く

ふんじのりくせんかきりかむらさきおとしにんかむら

弘治三年の東百有枯野

いんげん内所之和

後二位行家

ふんやいんげんおとしの冬ふりあはしむらさきひまわり

家集

ふんやの養生

小大君

△和泉國和泉郡今
上りあはしむらさきひまわり
重なりりり
京

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

あはしむらさきひまわりおとしのふりあはしむらさきひまわり

志のえのや地本和

明珠法師

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

是のふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

坂河院は時百有野 基後

しんやみらさきひまわりおとしのふりあはしむらさきひまわり

刑部之北邊

音のふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

百有野の 土西の院の長

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

春野 氏部之為家

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

ふんや二年のふりあはしむらさきひまわり

持僧之為

ふんやのいんげんおとしのふりあはしむらさきひまわり

題名 おぼろ 大和 佐理前

読人 おぼろ

元 ねんごも おぼろ 大和元 年 上 天皇 御 伊 國 出 幸 の 由

元 大和 時 大和 元

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 吹 上 御 出 幸 の 由 大和 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

源 仲 業

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 長 統 おぼろ 山城

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

元 元 年 十 二 月 有 原 定 國 出 幸 の 由

しひりやうくわんたむとてまひさしほりたる

百首はの 後鳥羽院は制家

秋もくらくと花をのゆくはつとまきあさあきの色をみ

あ集くさりの 相模

東橋野のじしりのまのまてしすむせいつけと

東河院は附首損作 仲文朝臣

くされあざとまのひらひらとみゆる人よもあそ

冬の中まの古歌 道因法師

くさのこもまはゆはつと秋のあそま冬ま

野ま 赤人

くさのこまのまよえとらるるをむしり書きまき

康保三年の月日書あそ合上城

右大将院時

をみるくさのまのむのむあ一人よとえとらるるをみ

清集冬のおむいひの 中勢の文二福倉

書とまむ秋のあそいひとて秋のひらのひのま

清水寺寺合 藤原親威

まきまけらやのひらのむらゆもまきと風をむ

野ま 野不知 秋人

やまのまのむららのにまきとあそいひとて人よ

月まの女は 月

まきまけらやのひらのむらゆもまきと風をむ

白中第花 後頼朝

まきまけらやのひらのむらゆもまきと風をむ

まの女は

まの古歌

ま

永久元年二月願物了事今取草

源經道朝臣

ましましたの... 新... 長承三年六月幸秘五番... 野經草律

身之店言大更後成

六首番三人... 在百... 大苑有七... 和

百首番三人... 和... 道徳和尚

大苑有七... 和... 大苑有七

大苑有七... 和... 大苑有七

大苑有七... 和... 大苑有七

大苑有七... 和... 大苑有七

文永二年白河殿七日有野記

後醍醐院は製

新... 梅... 債人不... 和

債人不... 和... 債人不

孫松光
継也

まのくも吹むのむらさき茶のいさよに
建長五年申上首中
氏部為家
松風

風ゆるりのすそのあざけ
家集野経月
家長朝長

月ゆるりのすそのあざけ
六帖題
持僧正朝

たしむりのすそを
長寺
人丸

むらさきのすそのあざけ
久安百首
大物津門大光

あざけのすそのあざけ
春野
正三位為家
好忠

あざけのすそのあざけ
三首
好忠

あざけのすそのあざけ
あざけのすそのあざけ
あざけのすそのあざけ

くしきめのおもひのくににかりてしのおもひのくににかりて

る家の家古首

家長朝臣

知れぬのたまひに

木をさるまをさるま

初三沢

六帖題

あはれはるの

信玄朝臣

相持は

あまのつらあまのつらとて

五三

題不知

あはれの

大伴常祢千官

からの三つや

五三

月

後人云

みづのたまののくににかりて

建保三年石原古首

三津見定

春のついで

後保大寺大首

原

あまのつらあまのつらとて

有持実天皇後石原清隆子

如影法師

あまのつらあまのつらとて

永仁三年武下會兼清隆

藤原為頭

あまのつらあまのつらとて

天仁三年二月御時

仲直朝臣

あまのつらあまのつらとて

堀川俊成御首

あまのつらあまのつらとて

遠取坂十首三の公野春雨あいの

隆祐親也

たまのうらあさうのつれあふもろくにのこみくき端

久安百首河多天師本 実清親也

秋つゝあつものもほの秋あふあさうらもろつら

家集寺治麻野 越前 後二住家隆心

あつまのよあちの舟さげら又たくまの秋乃をらり秋あ

建保三年内大吟家百首よ寄若雨惠

あつ一の春又陸奥 家長親也

浅茅原このむじもあふあつ一のあつよむとつら秋の秋

貞應三年若雨百首三

氏越る家心

あつまのあまふすあつまのあつまのあつまのあつま

浄集月百首中野月

後鳥羽院御製

あつまのあつまのあつまのあつまのあつまのあつま

寶治二年百首松宿あつまの 國書助くち

前大納言為氏心

あつまのあつまのあつまのあつまのあつまのあつま

弘長元年百首 後九条内大臣

あつまのあつまのあつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつまのあつまのあつま

文永八年毎月一首中あつまの

氏部の家

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

家集

月

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

貞應三年六月若石百首

月

あふふふふふふふふふふふふふふふふふ

建保二年若石百首 後二信家隆

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

六帖題

氏部の家

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

上野國

讀人不知

百廿

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

津集

後三信家隆

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

平祐舉

平祐舉

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

影市

讀人不知

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

交應之平七社百首

氏部の家

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

家集

あの上人

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

文欣

公言五
方格原泉

平
あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

永安二年閏十二月東心三の合連日記

清浦朝長

あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

赤禎十首三の東麻 後久我大政大臣

あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

越中岡三の 後人不知

あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

永安二年大政文祿日記の合女席花

あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

あまのこころをさかしてさかしのちかきあまのこころをさかして

同院鳴鶴

中納言也持

すまのいよふらまきすしらちる持に光る

千五百番三の合すまのいよは揚頭船

すし録とすらむとやとくくすゆめ命命にまきす

影らすすすまのいよ後人志

くつたよふいふまはのすま命のいよとていふ

家集すまのいよ後頼朝也

まきまきすすまのいよあつたすしとていふ

近江 徳徳和尚

方の持す命のいよ命にまきくゆひわ持す

家集 市川納言進房也

持す命のいよ命にまきくゆひわ持す

氷久元年十一月藤室原海也命の合志

すまのいよの頼朝乃意野信佳

祐子内親王家紀傳

いよ命のいよ命にまきくゆひわ持す

家集すまのいよ後二位家隆也

みらまのいよ命のいよ命にまきくゆひわ持す

長多院入道三良親也命の中首

野宮大寺

いよ命のいよ命にまきくゆひわ持す

原

弘長元年百首 後九条内太

いよ命のいよ命にまきくゆひわ持す

建長五年百一首中

氏部と為家

日及はむ村のむらじの海井生もの第と名つる
 及は院入道に取す五十首各三の

源師光

ふしゆのいふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

建保二年内裏十首奇合

後三位純

高きかたの國のむらじの海井生もの第と名つる
 千五百首奇合

春謙雅經

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

題子句

女清殿子女

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

家集村にむらじの海井生もの第と名つる

前中納言定家

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

家集村にむらじの海井生もの第と名つる

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

十首奇合

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

後人奇合

いふとむらじの海井生もの第と名つる
 家集村にむらじの海井生もの第と名つる

いふとむらじの海井生もの第と名つる

家集

鴨長明

白鳥のうらやまのまはりの花のよのうらやまのまはりの
二の三のいねまのうらやまのまはりのうらやまのまはりの
うらやまのまはりのうらやまのまはりのうらやまのまはりの

百首の中
隆信朝臣

兼つ 永保元年大嘗事
後松尾公成 市中納言直房

心守大嘗會
意仲

永保元年大嘗事
市
中納言直房

家集

源順

三百年前
好康
弘長元年
俊信の家
弘長元年
俊信の家

好康
俊信の家
弘長元年

万代
源後北条

あつらひの春やまゝのいふはるのうらやまのうらやま
三百二十年中

好集

源後北条
あつらひの春

まゝまゝかゝりていふはるのうらやまのうらやま
寛徳天皇後若水は藤子

中
源氏文相

ほろろ我大政大臣

承安二年法橋古三の合掌の歌
かゝる春刺取

る雅法師

あつらひのかゝるの原のうらやまのうらやま
日三の判去は法橋の歌
てあつらひのうらやまのうらやま

佛業濯哥合

あつらひ上人

かゝるのうらやまのうらやまのうらやま
六帖題

心三位の家

あつらひのうらやまのうらやまのうらやま
海道者次百首かゝり

本儀を相

あつらひのうらやまのうらやまのうらやま
文意元年と社百首

あつらひのうらやまのうらやまのうらやま
すゝかまのうらやまのうらやまのうらやま
寛徳天皇後若水は藤子

及鳥羽院は割衣

あつらひのうらやまのうらやまのうらやま
如新法師

とていふたはたのやうに言ふ事も世に於てのついでに申す所

建長七年顯朝の家千首三の寄原志

源仲業

あやしの言とていふて人からるるまはれとていふて

後三位行純

貞應三年百首眺る

氏部なる家

弘長二年箱根文を納る

安嘉門院家

松平又らにまゝにいふも海より入るのついで

地の上人

聖ついでにいふにまゝにいふも海より入るのついで

業法朝臣

永久三年大津文祿三の合言

後人志

元永元の家三の合言

は村も入る用白

は哥判者 後頼朝に云の家のたてをいふ

新十巻一

そのくさまの御座るは公に御座りて申す事

永又四年百首原まのほし後杉朝光

家集樹陰付来

曰

いさういあそひくわいけい... 家のこと

是... 真神奈 後人

お月くらたまかんうらに... 言ひ

建長八年百首原公 元大納言頭朝光

くらりてかへま... 言ひ

けいの判書行... 家も

ゆるちうの... 言中

思

長哥

人丸

よ... 言ひ

後法持入道関白百首

藤原良経

あす... 言ひ

寄草恵

後人

あふ... 言ひ

六帖題

長並内大臣

あふ... 言ひ

家集志

後二位

あふ... 言ひ

中務

持僧正之物

あつたまゝに入らぬかましく行しむる志ありまゝにす

康平四年三月祐子内親王御幸合

あつたまゝにす 妻松原若狭 武国守御 後河

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

後朱雀院一宮御幸合

甲斐

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

法持朝臣

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

藤原道隆

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

大藏院隆安

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

法性朝臣

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

建保三年若吉青 僧正行意

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

藤原康光

あつたまゝにす 妻松原若狭 後河

寛治元年天皇院若菜山王子

具親朝臣

全緒山宮主基方
大藏院隆博

中務子安建原

そのとらふの事さしなむらの事りあはれ

百有りの 八景院高倉

冬をのあつたふんふんしたのてあはれ

建保三年名宗百有

心三信建定

く風あしおるまふはあつたあ

心三位知家

かあつたあはれつたあはれあ

心お社守合藤と 海取房

いふあつたあはれつたあはれあ

永又三年百有原 仲実胡片

まのうらあつたあはれつたあはれあ

くうあつたあはれつたあはれあ

社奉

くあつたあはれつたあはれあ

天保三年用日あつたあはれあ

續人志

かあつたあはれつたあはれあ

寶治二年百有 及九条内大臣

あつたあはれつたあはれあ

貞應三年百有 野百有世花

氏部心為家

あつたあはれつたあはれあ

康和二年百有 國信心為家 後朝

源氏物語

ワキありあけのくはすもあけのきらけらるる

永久二年百有原 月

あきらみの露も^{はげ}あきらみのきらけらるる

寶治二年百有 源後平朝臣

かろふあけのくはすもあけのきらけらるる

千五百^{あけ} 正三位季純

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

千五百^{あけ} 源後平朝臣

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

寶治二年百有 前大納言為氏

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

大納言格人

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

建長八年百有 今大納言將具氏

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

家集霞の中 前中納言建房

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

仁安二年八月 經國の家合紅葉

資隆朝臣

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

原 後人志

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

神祇伯頭仲

くはすもあけのくはすもあけのきらけらるる

千五百首の合皇朝ノ醍醐入道太政大臣

かきかへし皇朝ノのいなり皇朝ノはまら皇朝ノのまはら皇朝ノのあま皇朝ノのあま皇朝ノ

家集小倉森のいなり小倉森のあま小倉森のあま小倉森

うらやま皇朝ノのいろ皇朝ノのいろ皇朝ノのいろ皇朝ノのいろ皇朝ノ

永保元年大嘗と主基方律屏風皇朝ノ

前中納言匡房皇朝ノ

少のまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

千五百首の合皇朝ノ野宮太政大臣皇朝ノ

みらのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

永久元年百首皇朝ノ藤原忠房皇朝ノ

まら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

要大嘗と皇朝ノ善仲皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

いなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノ

建長八年百首の合

藤原門院中宰相

かきかへし皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノ

中務卿のいなり皇朝ノの合皇朝ノ持僧正皇朝ノ

まら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

氏部皇朝ノの家皇朝ノ

まら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

源皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノ

かきかへし皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノ

春皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノのいなり皇朝ノ

まら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノのまら皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

皇朝ノ

新編 家集

神代よりいひしりかへしこの家集はあつた

家集

国末勅

後醍醐天皇

徳志げら神少ののちの下にとちまう草の

このののちのいひけらすは降海は所の

神少ののちのいひけらすは降海は所の

文應元年七月百首

國末勅

氏詔のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

永享二年二月経國のちのいひけらすは降海は所の

國末勅

藤原資隆のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

千五百番のちの

三位重純のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

神少ののちのいひけらすは降海は所の

信實のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

家集のちのいひけらすは降海は所の

為頼のちの

今にのちのいひけらすは降海は所の

題市のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

家集のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

清集のちの

あつたのちのいひけらすは降海は所の

後醍醐天皇御紀所合治田社述懐

後三位家隆

あはれみたまの御紀の御身は御まきの御
題志すききり 後人不和

文治六年五社百首

身大右文大夫後成

正治三〇百首

前大納言隆房

家集

正三位知家

あはれみたまの御紀の御身は御まきの御
後頼朝

あはれみたまの御紀の御身は御まきの御
寛政元年女清入内侍屏風杜も山井
治水 西宮も入道大政大臣
えんそく風もあまもあまの御身は御まきの御
家集 春儀雅經

建長八年百首奇合

たは中納言具氏

家集あはれみたまの御身は御まきの御
前氏部し雅有

あはれみたまの御紀の御身は御まきの御
息儀道江

采女三途河心船カ家寺合部三刺志後成

道同法師

予の心は... 花下志ぬい...

後頼朝カ

あまらのたし... 家集

玄俊朝カ

あまらぬ... 題不念... 後人志

心志人の心... 心三位志家

宝治二年... 九字十元

心三位志家

家集... 六条院宣旨

梯中... 存本条内カ

家集... 大東大支頭補

後人志... 大福

近江... 益田森 巡江

近江守部 益田社 益田社

千五百番奇合

醍醐入道大政大臣

予の書に於てのくさくさの事やうやう身代りし事あり
天久元年の事三合

順徳院法皇

あけにうらうらさの杜より路のうとけさく言あり

山集立秋法皇

後京極攝政

下くさの寝ささきく杜のくさくさの事あり

家集部云々

後頼朝

るけいささきさの事あり

康平元年三月秋子内親王の事あり

藤森号後朱雀院一文

小侍

むさしのくさくさの事あり

六帖題 新撰二版 信實朝臣 信實朝臣

寶治二年百首杜知事

克俊朝臣

志くぬのあたまからくさくさの事あり

年同三の事あり の事あり 杜の事あり

惠慶法師

人のあたまからくさくさの事あり

承安元年八月金全法師の事あり

寛全法師

まらえの事あり

八中納言兼捕
人のあたまからくさくさの事あり
直に迷ひぬ事あり

山城又伊豆或作

信實朝臣 信實朝臣

山崎

馬内傳

善く花村の文とてしほそはれく今もさう衣の

建長八年百五の合二カケリクハ光俊朝臣

まふまふついでにせり久我の森後のたよりをこれ

名亦五の合志森 又 山城細威女

あけさのしつり身はつよまけはせり杜ともや

森と 讀人不知

うらまへてふ人いなる所実のまふまはのこむもちあ

野々す未枯森 又山城月

人志あもひすうのくあふと身は二りの森あり

月

志らふもまへても神とてしほのわいふまけり

津集棟あはまのり 國志部中務の又と権者

うらまへてふ人いなる所実のまふまはのこむもちあ

六帖題あはまのり 山城月

人志あもひすうのくあふと身は二りの森あり

月三位知家

うらまへてふ人いなる所実のまふまはのこむもちあ

建平三年三月祐子内親王の若水五合

あはまのり 小侍

うらまへてふ人いなる所実のまふまはのこむもちあ

家集あはまのり 山城和泉或部

あはまのり 讀人不知

讀人不知

懐
井

この書は、いかにむづかしいものか、おぼやかしうたへてある

あはれのりー 尾張

同

同

はなれくたれりしとておぼやかしうたへてある

文應元年七社百首

たしなむ心海

氏詠の名家

ねあはれおぼやかしうたへてある

同

同

たしなむ心海

三 びーす

鐘本森

後人志す

うき

だつておぼやかしうたへてある

又安百首

花園の名家

らうたしおぼやかしうたへてある

永享二年重忠の家と合勢云

あはれのりー 尾張

法性寺の道用白雲の歌

あはれのりー 尾張

洞院松政の百首歌

あはれのりー 大和又海

俊成の女

あはれのりー 尾張

寶治二年百首

牛内侍

あはれのりー 尾張

同

支後朝臣

あはれのりー 尾張

六帖題

氏詠の名家

あはれのりー 尾張

三六二

家集

祐奉

すまゆへんをわたりてしるす。一、まのむらじまのむらじま

けしきいふもくごりけりよむしんくしんくしんくしんくしんく

るしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんく

三
森

徳田村 信太 和泉

後一人一と

りしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんくしんく

河原橋のむらじまのむらじま

隆祐朝臣

こけりてしるす。一、まのむらじまのむらじま

百者専

後二位家隆

まのむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

建保三年のむらじまのむらじま

後三位範家

らむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

千五百番子令

陸奥

法橋顯昭

すまゆへんをわたりてしるす。一、まのむらじまのむらじま

寶治二年百者

正三位範朝

おまむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

法集

信太 和泉

衣笠内木

夕立のむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

題志子

大湯

後一人と

甲子のむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

新所社之建 和泉 親實法師

くれむらじまのむらじまのむらじまのむらじま

け三の判老 法務卿片 云々志しませりり耳の成

ふれしり新羅社をこころのなるまゝいふ

子院てよめいふ年々々々

家集松村の森と 石信のり

とよまらふもやいふいふいふいふいふいふ松村の

牧

堀河院は時百首 みろのひまわり 基俊

あひくもいふいふいふいふいふいふいふいふ

建保三年 若山百首 山三の

山三のまゝに美山山城女松信 順徳院古製

かりてりすのいふいふいふいふいふいふいふいふ

月

後成の女

舟のしらさのいふいふいふいふいふいふいふいふ

月

正三位忠定

あつらふのいふいふいふいふいふいふいふいふ

月

後三位行純

あつらふのいふいふいふいふいふいふいふいふ

洞院松政の百首 丹月

隆祐朝片

あつらふのいふいふいふいふいふいふいふいふ

千五百首 奇合 惠奇

身大庄太夫 後成

あつらふのいふいふいふいふいふいふいふいふ

六帖題

六帖題

氏親と為家

たぐのままたぎの二名のかゝるまゝに申す事なきは又あつて

文治六年女侍入内比岸同約連

陸奥人

三位季純

とらへんこといふもよほしひく約のちまはらぬあつて

長女後入道二宗朝と為中首

野文た大信

考とてんらのいふもよほしひく約のちまはらぬあつて

家集今人ささけりけり

七稿

こまつに

祐奉

るまゝにさすこといふもよほしひく約のちまはらぬあつて

也

うらな

こうけり

あつておのゝちりけり

家集今人ささけり

田原

乃ちこまつにさすこといふもよほしひく約のちまはらぬあつて

馬

入道

後人

あつて

とらへんこといふもよほしひく約のちまはらぬあつて

坂川院

頭仲

とらへんこといふもよほしひく約のちまはらぬあつて

乃のみまにらりあつて

大納言朝光

はらちちり

新小舞

あつて

田

百首年 マカシの田

後二位家隆 心

建長元年毎日首中 マカシの田

氏部為家 心

文應元年七社百首 マカシの田

月

田 マカシの田

月

本儀為相 心

田 マカシの田

藤原為頭

田 マカシの田

指大納言 心

田 マカシの田

皇太后之たま後 心

田 マカシの田

忠心後古製

田 マカシの田

氏部為家 心

わさ 山田
かひふとてのさかたからなるのさかた

月 主後朝臣

月 目わらふのさかたからなるのさかた

月 心三位朝臣

月 心三位朝臣のさかたからなるのさかた

月 月 秋田

月 月 秋田のさかたからなるのさかた

月 月 光後朝臣

月 月 光後朝臣のさかたからなるのさかた

月 月 信実朝臣

月 月 信実朝臣のさかたからなるのさかた

月 月 寛元三年結婚御首

鹽鉄論

寛元三年結婚御首

氏部なる家

氏部なる家のさかたからなるのさかた

浄衆 浄衆のさかたからなるのさかた

浄衆のさかたからなるのさかた

家集 家集のさかたからなるのさかた

家集のさかたからなるのさかた

月 月

月 月 貞應三年百首各田

氏部なる家

氏部なる家のさかたからなるのさかた

人間榮耀同縁浄材下出因氣味深

人間榮耀同縁浄材下出因氣味深

中納言家

あしと田島の若家はたかしの中納言の家

家集早苗

源仲心

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

月

月

ふり多の中納言のいさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

文應元年大青會之基方の中納言

猶春亭

後二位行家

ひさとくの中納言のいさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

洞院攝政家の百首の家

後二位家隆

ふり多の中納言のいさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集百首の家

持僧正公朝

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集

頭仲朝

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集

中納言の文

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集

高市連建人

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集

持僧正公朝

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

家集

實政家

いさよとひさのりのたか田の家の中納言の家

題字

後人不知

ひんがしのあまのこころにまじりてはるかにせむしをよみてあそび

天治元年二月勤寺并合早苗

隆文法師

乃もまじりてはるかにまじりてはるかにまじりてはるかに

梯中彩世百首

はるかにまじりてはるかにまじりてはるかに

建長五年毎日一首中

氏諱

志のこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかに

藤原公純

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

氏諱

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

六百番三の合意志 法橋頭船

あまのこころにまじりてはるかにまじりてはるかに

百首歌

ふみふりした

後二位家隆打旅(巨箱)

風見

三つはのちかたかへんむらあはるのさかきさかき

南山百首歌

兼徳和尚

月よりのさかきさかきさかきさかきさかき

皮集

清捕朝臣

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

うまのいふまはのさかきさかきさかきさかき

いああるお田よさかきさかきさかきさかき

長保三の十月鎌沖仲たか出雲國若

三合長田祝長田丹波抄録

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

上野國身上野

人丸

百首

かきつきのこの田りるあはれまじりのんえくから

題不知いふたふ 續人不知

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

千五百首歌 隆信朝臣

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

永入の年お殿さかきさかき早苗さかきさかき

仲文朝臣

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

仁安三年二月勤まじりのんえくから

行末法師

あはれまじりのんえくからたかたかたかたかた

百首歌の田 長馬殿後出

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text, possibly a date or location.

烟

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

玉推三

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in red ink.

Handwritten text, possibly a name or title.

叢

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

久世百首

花園大内家書

よき神北まじりて中北のまじりてしむるはまじりて

六帖題表

衣笠内大内

十北三北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

月

心三位知家心

快もたぬしむるはまじりてしむるはまじりて

月

権二傳権家

り北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

同

光俊朝臣

む次北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

畠山入道持政の二首

氏越心の家

あつそよもむらさき心のまじりてしむるはまじりて

六帖題

月

昔北少北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

中務心のまじりて

あま北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

氏越心の家

かき北のまじりて中北のまじりてしむるはまじりて

保延元年家書

大藏心の家

まじりて中北のまじりてしむるはまじりて

ちりり心のまじりて

石

百為心への寄若お慶

寺清門院御製

あいのりのおもたしおなまはひらきお人ふあをり

夜のみや

兼中納言建彦

まのやのまののそいあまのし女の神より

建長元年百有寄合

氏任佐成

まのやのまののそいあまのし女の神より

古帖題

信実約長

つらみさしおなまはひらきお人ふあをり

同

同

新三

このまのしおなまはひらきお人ふあをり

弘長元年百有

同

おの井のめせまのそいあまのし女の神より

仁安二年八月御威の家との合月

法捕頭

まのしおなまはひらきお人ふあをり

六百番との合

後二位家隆

おののまのしおなまはひらきお人ふあをり

後若百有寄

氏助の家

おののまのしおなまはひらきお人ふあをり

天禄三年二月賀子内親の家との合

後人

このまのしおなまはひらきお人ふあをり

天延三年三月法性寺大改大住持石君亮

奇合 月

君代の如く

長多後入道二京朝正七甲首

源兼昌

志二甲

源兼昌

連懐百首

源兼昌

文治三年百首連懐

源兼昌

前中納言家

千首中

源兼昌

家集

源兼昌

永久元年百首石

源兼昌

月

源兼昌

君代の如く

源兼昌

君代の如く

百首紀十七萬法五條
李蕭遠運命論

名所

名所

名所

名所

名所

ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 けりおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 のる合いおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま

ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま

ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま

ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 ちんちんおぼけにひらきく千ののぶたれあま

藤原頼保

悉くおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 悉くおぼけにひらきく千ののぶたれあま

けりおぼけにひらきく千ののぶたれあま

俊成

けりおぼけにひらきく千ののぶたれあま
 けりおぼけにひらきく千ののぶたれあま

永享二年九月御成しやまの合意
 永享二年九月御成しやまの合意

小治政

あつたの如くまじりてんかひのなきもあつたの如く
付吾の判者 清輔云 望し久石の如く此の如く
と云ふ事にしては 女のみよる事や 意を
てる事よりあつた如く 意の如くあつた人
もあつた事とて思ひたる事とて思ひたる事
よあつた人の定意よりあつた事とて思ひたる
あつた事とて思ひたる事とて思ひたる事

久安百首

あつた事とて思ひたる事とて思ひたる事
侍買門院梅河
上野門院兼光

月

花園大僧也 兼光
後九条内大臣
早人 仲文朝臣

永久二年百首

仲文朝臣
藤原忠房

保延二年 指中納言 總定 家守 合惠

大義の如く

建長八年 百首の合

武家伝記 長生因大臣

長生因大臣の河邊の石の所なり

此の判者 支後朝の 記載異國之標

我朝之習俗如之

建長三年の大臣家首有

家長朝臣

あかきまひ入るはくしむるはくしむるはくしむる

一葉大段大長三十三首中

月

かきまひまのいかにいかにいかにいかにいかに

家集

支後朝臣

くろくしひくろくしひくろくしひくろくしひくろくしひ

は尋の或抄云支後朝臣麻鴻社まらうて

ゆけらよ真の正前とて不用の清殿らり

二三町たりと東の乃中とありまは清殿

てあるま神官とありてあるま神官とありてあるま

おほく二入とあるまあるまあるまあるまあるま

ふあやとて清殿のころは折入中まらうて

てゆけるをわり出てありはゆけるをわり出てあり

ゆてはふのふにく我神とてゆけるをわり出てあり

百葉集と石のこまらとてあるまあるまあるま

官はかりゆけらとて

題不知

續人不知

百十九 少らるるのけりやうのそこまらとてあるまあるま

若水三つとらふと 後頼朝片

ふくまふたふたのこころを原とて物持の舟のまき三つと

家集石 月

ゆきまふたふたのこころを原とて物持の舟のまき三つと

お

細砂

題不知 續人不知

^{百十一} 極くて又なるまふたふたのこころを原とて物持の舟のまき三つと

弘長三年五月庚子公濱霞

三つと

前大納言の氏

浦の底くまふたふたのこころを原とて物持の舟のまき三つと

月 後二位の妻

浦の底くまふたふたのこころを原とて物持の舟のまき三つと

又那

寛永十二ノ年

八代守探合

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten text in the upper middle section of the right page.

Handwritten text in the middle section of the right page.

Handwritten text in the lower middle section of the right page.

Handwritten text in the lower section of the right page.

Handwritten text in the lower section of the right page.

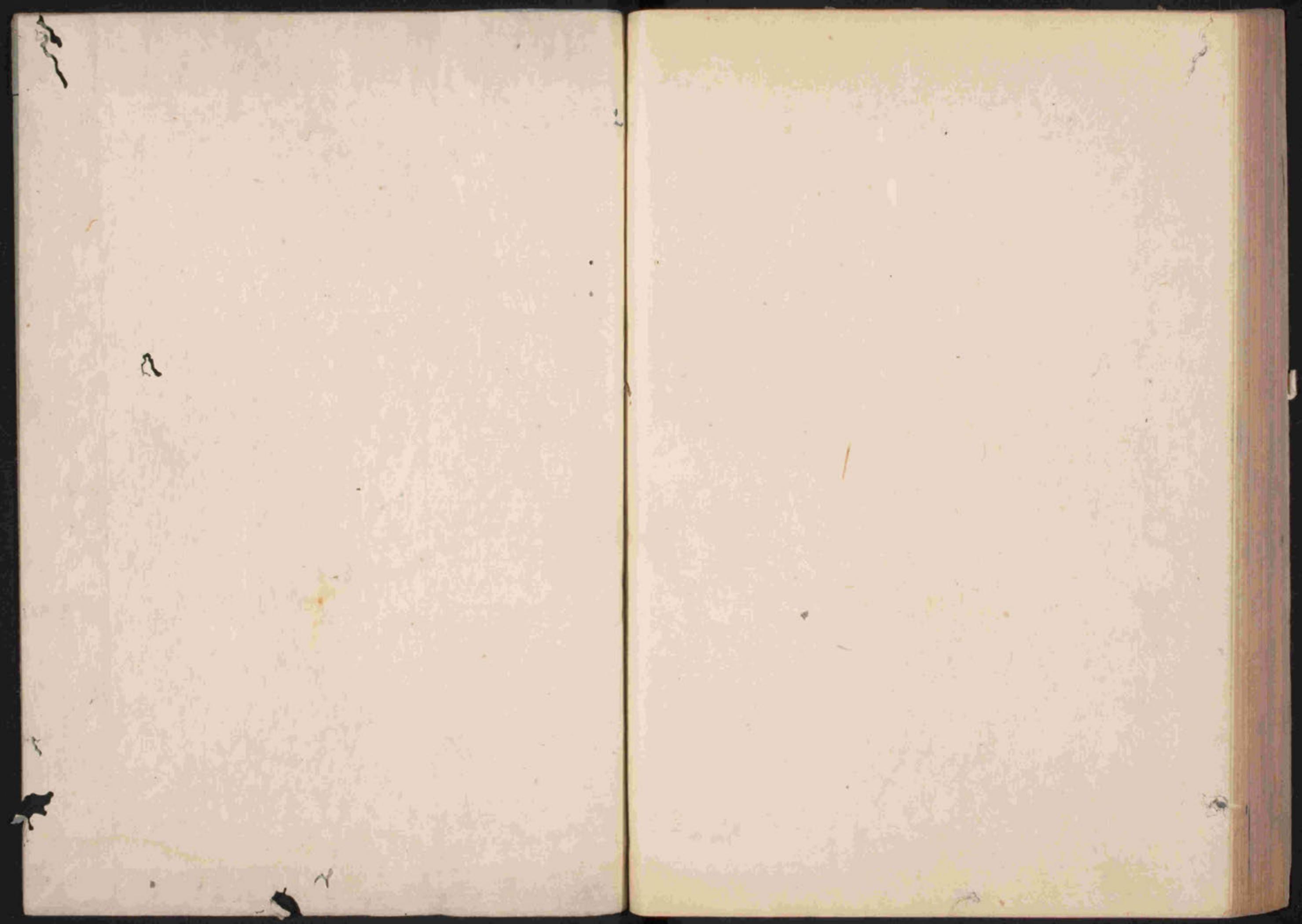
Handwritten text in the lower section of the right page.

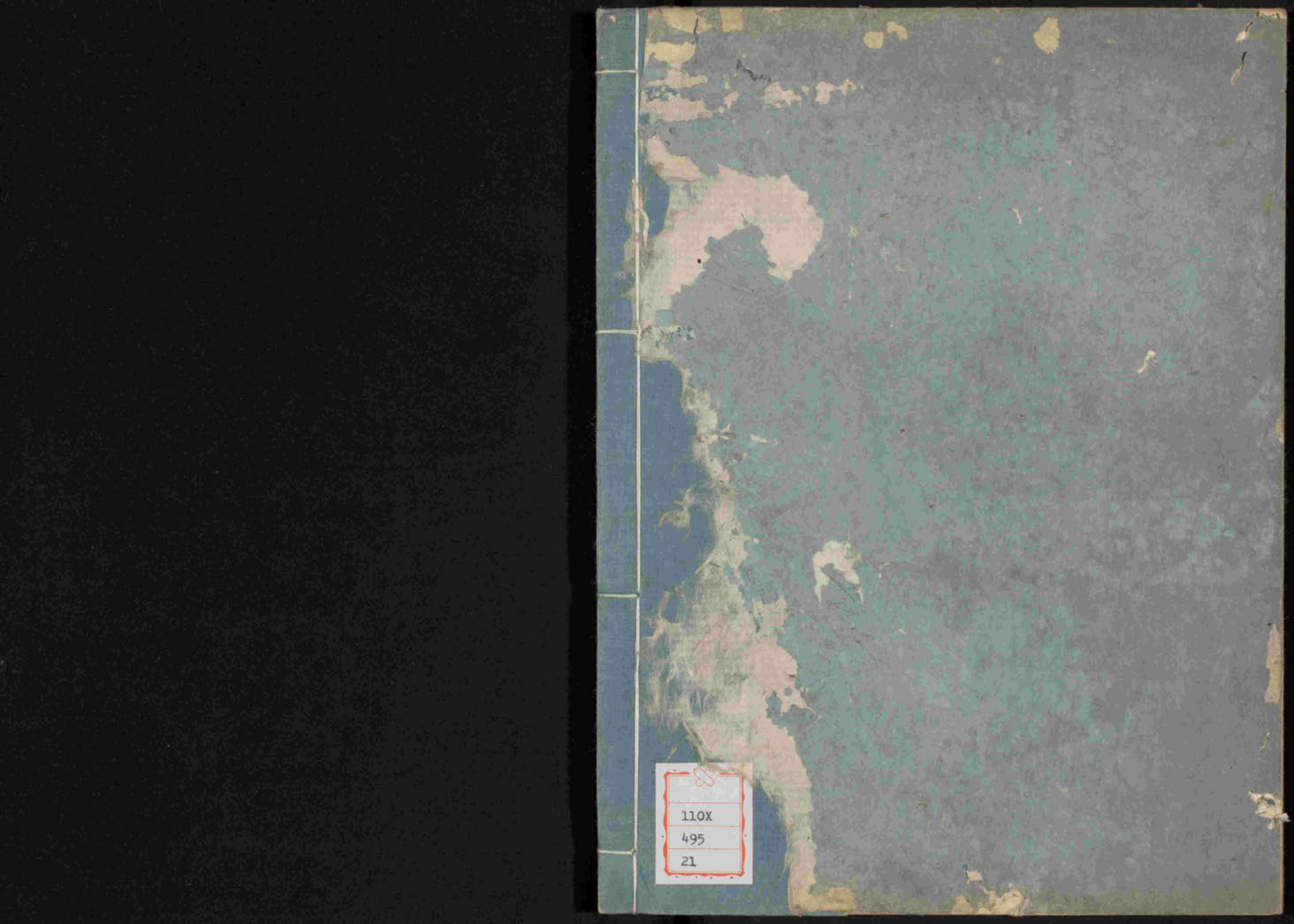
Handwritten text in the lower section of the right page.

Handwritten text in the lower section of the right page.

Handwritten text in the lower section of the right page.

The left page of the notebook is mostly blank with some faint, illegible markings and stains.





110X
495
21